

史跡能島城跡保存活用整備工事について（令和4年度以降実施予定）

はじめに

今治市は、村上海賊の本拠地「史跡能島城跡」を保存・活用するため、平成13年度から発掘調査の実施と整備計画等の検討を進め、令和2年度に『史跡能島城跡整備基本計画』を策定いたしました。この整備基本計画に基づき、令和4年度から保存・活用整備工事に着手する予定です。

この一連の整備事業を前に、いま一度、史跡能島城跡をとりまく現状と課題、特に史跡を壊す要因について整理し、史跡を守るための保存整備と、史跡を活かすための活用整備について、その概要を説明いたします。

1) 史跡能島城跡の現状と課題 - 史跡を壊す要因 -

これまでの史跡の発掘調査、識者の見解、現地の経過観察などから判明した、現状で史跡能島城跡を壊している主な要因としては、雨水、植生、波浪の3つが挙げられます。

1-1. 雨水の影響（陸地部）

雨水によって、郭（平坦面）・切岸（斜面）の土砂が流出しています。特に平成30年7月豪雨、令和2年7月豪雨では、周辺で観測史上かつてないほどの雨量を観測し（下表参照）、大規模に斜面表層の地すべりが発生しました。これらの豪雨では周辺の島々の斜面でも多数被害が報告されましたが、能島城跡の切岸（斜面）は特に切り立っており、自然の要害として機能した反面、地すべりしやすいという性質も持ち合わせています。



平成30年7月豪雨（船だまり）

昭和51年～平成29年

観測所	降水量				備考
	日最大	時間最大	年間平均	総雨量	
今治	160.0mm	49.0mm	1275.8mm	—	【資料：気象庁】
大三島	156.0mm	59.0mm	1182.0mm	—	
玉川	254.0mm	66.0mm	1522.1mm	—	

平成30年7月豪雨

観測所	降水量				備考
	日最大	時間最大	年間平均 (\$S1\sim R1)	総雨量	
大三島	207.0mm	35.9mm	1185.2mm	414.5mm	【資料：気象庁】
宮窪※	275.5mm※※	28.5mm	—	426.0mm	【今治市宮窪支所観測データ】 ※能島城に一番近い観測地点 ※※日最大ではなく、24時間最大

1-2. 植生の影響（陸地部）

各郭に生育するソメイヨシノ等の樹木もまた、史跡を壊す要因になっています。

【地下】 南部平坦地以外の各郭では、村上海賊時代の遺構面まで地表から深さ 10 ～ 30cm で達するため、柱穴などの遺構や土師器などの遺物へ根が伸び、これらを破壊しています。また、岩盤の割れ目へ根が伸びることで、亀裂が大きくなり岩盤の弱体化もすすむと考えられます。

【地上】 樹木が隆起した根を張ることや、落葉で土が肥えることによって、郭表面に起伏をつくり出すため、切岸へと流れ込む雨水に偏り・集中が発生し、斜面崩落の要因となっています。



←ソメイヨシノの根によって破壊された村上海賊の遺構と出土品

表土のすぐ下には ⇒
村上海賊の遺構と
ソメイヨシノの根が走る



↑ 植生等によって形成された水道（みずみち）
落葉等で土が肥えることによる起伏

← ソメイヨシノの根による起伏

1-3. 波浪の影響（海岸部）

台風時などの大風や、大型船の航行や船舶の高速走行によって打ち寄せる航跡波（航走波）^{こうせきは こうそうは}が島を削っています。波の穏やかな能島北側の船だまりの海岸でさえ、船の航跡波によって海岸部に波が打ち付け、海岸部にある花崗岩質の岩礁とそこに穿たれた岩礁ピット、犬走り状の海蝕テラスなど、村上海賊が使っていた遺構の侵食、摩耗、崩壊が進行しています。

能島城跡では、海岸遺構の残りが良く、能島城の大手（正面玄関）の船だまりの岩礁ピット、海蝕テラスの波による破損のほか、鯛崎島の東側と西側の岩盤崩落が顕著です。

いわゆる海に囲まれた島に打ち寄せる波で岩礁が削れていくという、ごくあたりまえの現象ですが、能島と鯛崎島はそのすべてが保護の対象となる史跡なのです。



大型船の航行により打ち付ける波（船だまり）



波による岩礁の欠損



鯛崎島東側の海岸部の崩落



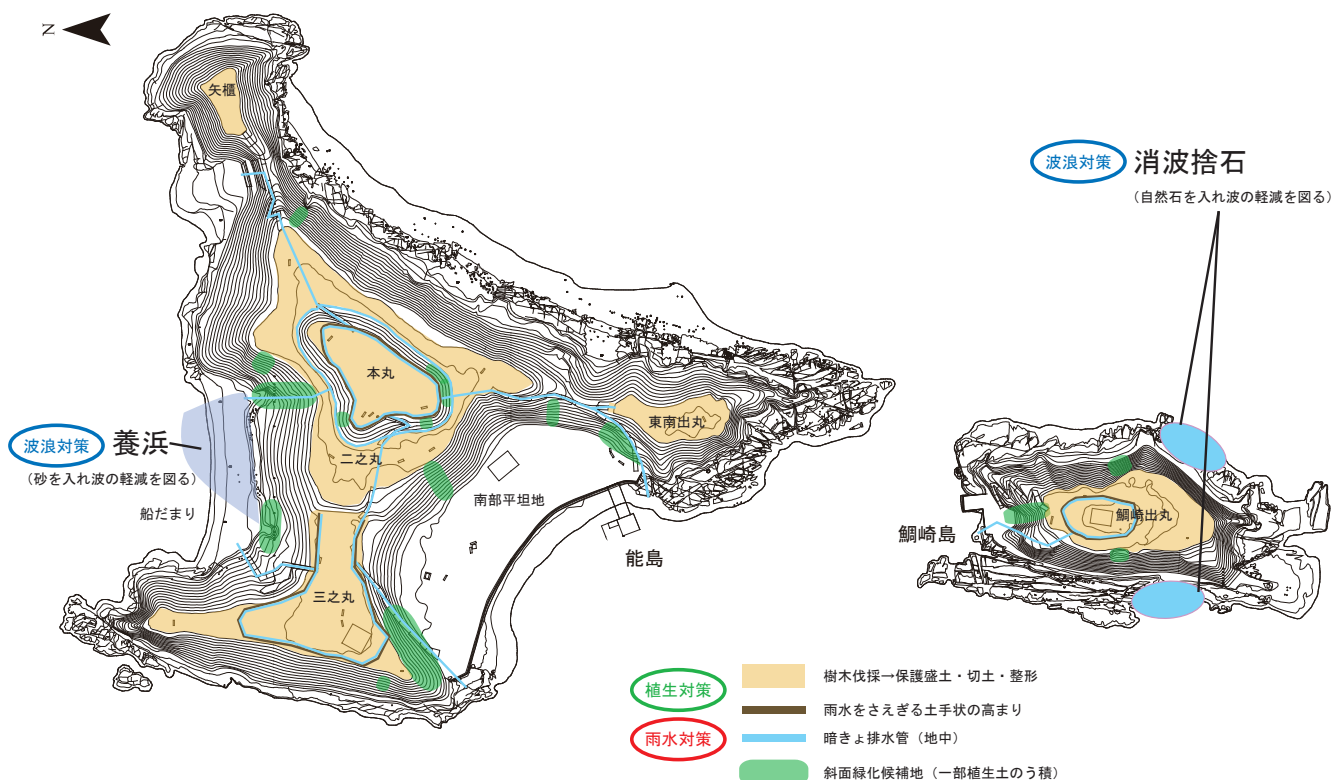
2) 保存整備・活用整備の計画について

2-1. 雨水、植生、波浪等から史跡能島城跡を守るための保存整備

陸地部に関しては、まず、地表面から村上海賊時代の遺構面までの深さがある程度確保できる南部平坦地をのぞいた、本丸、二之丸、三之丸、東南出丸、矢櫃、鯛崎島の各郭上に生育するソメイヨシノ等の樹木を取り除き、植生による破壊を止めます。そのうえで、地下遺構の保護を図りつつ、盛土および切土によって郭部分を本来の平坦な形状に整形します。この際、わずかな勾配をとることによって、郭上に降った雨水の流れをコントロールし、埋設した暗きょ管に誘導することで、計画的に海へと排水させる計画となっています。これで切岸へ流れ込む雨水が断たれ、雨水による崩落を防ぐ効果が期待できます。あわせて、切岸の岩盤が露出しているところについては、植生土のうや植生マットで緑化することで風化から保護します。

続いて、海岸部について、船だまりの砂浜には養浜^{ようひん}といって、海砂を足してかさ上げすることにより、水深を浅くし、波を軽減する手法をとります。また、切岸の崩落が著しい鯛崎島の東西両方の海岸には自然石による消波のための捨石工^{すていし}をおこないます。これにより波が直接切岸に打ち付けることを軽減します。いずれも自然素材によって大きく景観が変わることがないように配慮して施工します。このように海浜部のハード整備としては箇所を限定して施工しますが、経過を観察しつつ、航跡波を発生させる船舶の航行において、能島付近については、減速していただくよう呼び掛けることも重要と考えています。

国史跡という規制のなかで、コンクリートなどの現代工法を積極的に用いることができないなか、このような保存整備手法によって、能島城跡を保護していきます。



史跡能島城跡保存整備計画模式図

(現在、設計段階で、今後、文化庁および環境省の許可を得る予定です)

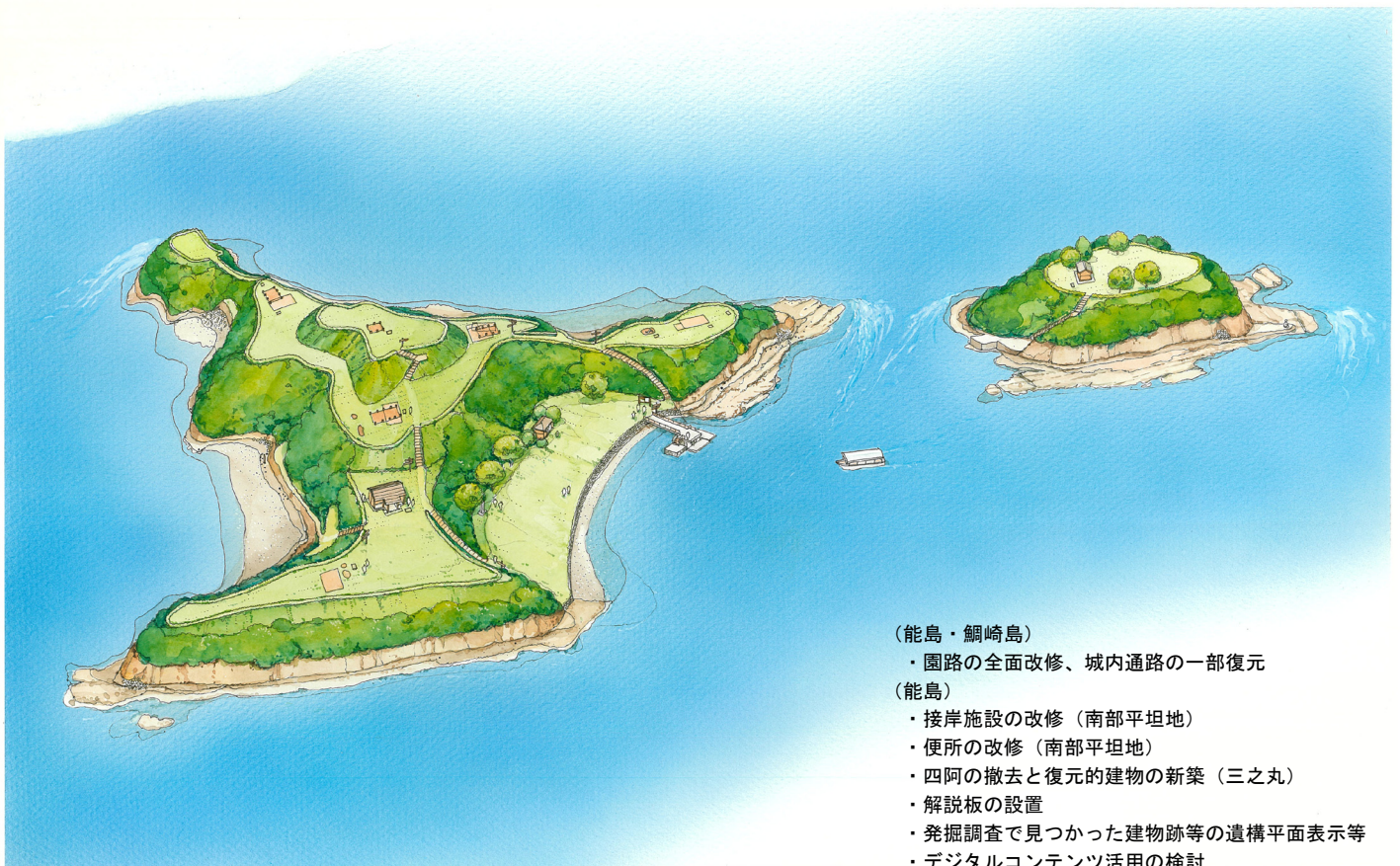
0 25 50m

2-2. 村上海賊の本拠地「史跡能島城跡」を公開・発信するための活用整備

まず、能島・鯛崎島両島に共通して、城内の園路については、現在の動線を引継ぎつつ全面的に改修します。一部、能島の船だまりから三之丸に至る部分などは発掘調査によって判明した当時の城内通路に沿ったルートでの復元を考えています。

次に、能島については、南部平坦地の船着き場について、現在よりも容易に安全に上陸できるように設備を改修します。また、便所（トイレ）については現位置で新しいものに改修いたします。次に、三之丸の四阿^{あずまや}については、現在のものは老朽化に加え、設置位置、規模、外観について史跡内建築物としては相応しくないため撤去します。そして、代替りの休憩所として、同じ三之丸で城内唯一の礎石建物が発掘された位置に、同規模の「復元的建物」を設置します。現地解説板等については、船着き場に総合案内板、郭ごとに個別解説板を設置します。さらに発掘調査で見つかった建物跡、鍛冶遺構などの場所には平面表示をおこない、地鎮め遺構（地鎮祭）のレプリカ設置などとあわせて、訪れて当時の能島城の様子がわかる展示解説を考えるようにしています。このような人工物はできるだけ低い位置に設置するなど、能島城跡の現在の史跡景観を阻害しないように配慮した計画とし、順次整備を進めてまいります。

一連の保存・活用整備完了後には、現在よりも多くの市民、観光客の皆さんが能島城跡に気軽に上陸いただき、現地にて、村上海賊の世界を体感していただけるよう、アクセスや周辺環境の利便性向上、情報発信力の強化についても検討を重ねていきたいと考えています。



村上海賊の本拠地「史跡能島城跡」の活用整備パース図（『史跡能島城跡整備基本計画』に加筆）